

日本海における警戒監視

空自 第46警戒隊 ①



佐渡島の空自レーダーサイト

VOICE

空自 第46警戒隊
3等空曹 鈴江 健

極寒の中、日本海側の空を守る要のサイトでの職務に誇りを持ち、24時間態勢で警戒監視任務に邁進しています。



東シナ海における警戒監視

海自 自衛艦隊 ②



東シナ海公海上で護衛艦「うみぎり」が確認した国連安保理決議で禁止されている北朝鮮船籍船舶との洋上での船舶間の物資の積替え（いわゆる「瀬取り」）と強く疑われる行為の様子（18（平成30）年5月）



VOICE

海自 護衛艦「あぶくま」
海士長 丸山 礼佳

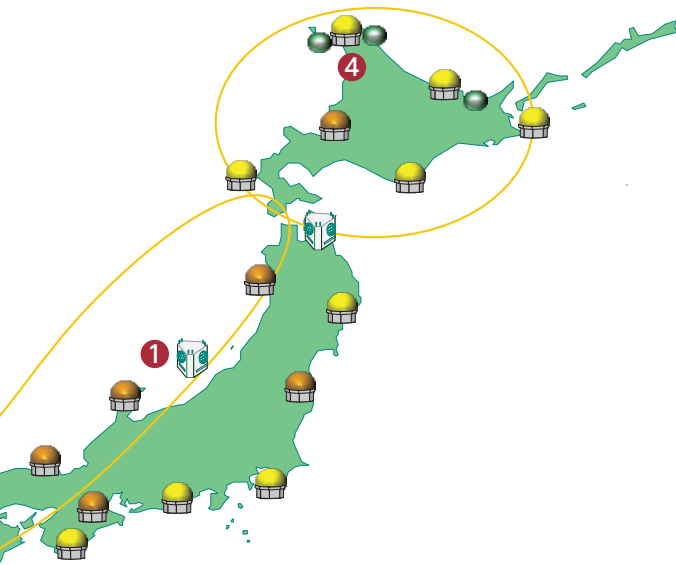
私の仕事は自分のもつ2つの目で警戒監視を行うことです。雨の日も風の日も、最前線で職務に邁進しています。



1 わが国周辺海空域における警戒監視

常時継続的な警戒監視

自衛隊は、各種事態に迅速かつシームレスに対応するため、それぞれの現場で、平素から24時間態勢でわが国周辺海空域の警戒監視を行っています。



北海道周辺における警戒監視

陸自 第301沿岸監視隊 4



礼文島の陸自分屯地

VOICE

陸自 第301沿岸監視隊
1等陸曹 芦崎 允

24時間365日の勤務態勢で、緊張感をもって宗谷海峡を通峡する艦船等の警戒監視を実施しています。



陸自 与那国沿岸監視隊 3



与那国島西側に位置する
駐屯地

丘陵部に位置する
監視施設

- 陸自 沿岸監視隊など
- 空自 レーダーサイト(BMD対応(FPS-5))
- 空自 レーダーサイト(BMD対応)
- 空自 レーダーサイト

※ はあくまで警戒監視範囲のイメージ図であり、実際の正確な警戒監視範囲ではない。

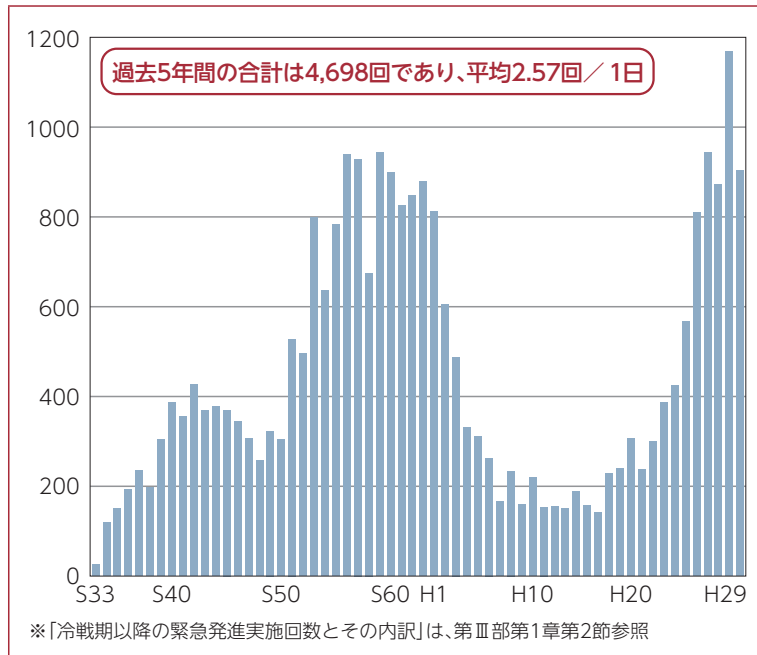
2

対領空侵犯措置

空の平和に懸けた60年

空自は、わが国周辺を飛行する航空機を探知・識別し、領空侵犯のおそれのある航空機を発見した場合には、戦闘機などを緊急発進（スクランブル）させ、航空機の状況を確認・監視しています。さらに、この航空機が領空を侵犯した場合には、退去の警告などを行っています。なお、対領空侵犯措置は1958（昭和33）年に開始され、本年で60年となり、平成29年度末までに合計で2万7,144回の緊急発進を行っています。

昭和33年度から平成29年度までの緊急発進実施回数の推移



VOICE

空自 第9航空団 飛行群 第304飛行隊
2等空尉 田口 翔平



幼い頃、F-15戦闘機に乗る父の姿に憧れて私も戦闘機パイロットを目指しました。南西地域は緊急発進回数の増加や対象機の多様化により、任務はより複雑化しています。いかなる状況にも対応できるよう日々訓練しています。



幼少期の筆者（当時）と父親

スクランブル!!



テイクオフ!!



3

各種災害派遣

大規模災害などへの迅速・的確な対応

自衛隊は、自然災害をはじめとする災害の発生時には、地方公共団体などと連携・協力し、被災者や遭難した船舶・航空機の捜索・救助、水防、医療、防疫、給水、人員や物資の輸送などの様々な活動を行っています。

自然災害への対応

九州北部豪雨



陸自による捜索救助活動の状況 (17 (平成29) 年7月)

香川県鳥インフルエンザ



陸自による防疫措置の状況 (18 (平成30) 年1月)

VOICE

陸自 第5施設団 第103施設器材隊
3等陸曹 笹川 秀将

豪雨災害の恐ろしさを身に染みて感じつつ、地元の消防団の方々と共に孤立地域の道なき道を進み、多数の被災者を背負って救助しました。



九州北部豪雨において救助活動のため現地で調整する筆者(写真中央)

福井県大雪



陸自による夜間の除雪活動の状況 (18 (平成30) 年2月)

大分県山崩れ



陸自による捜索救助活動の状況 (18 (平成30) 年4月)

平成30年7月豪雨



海自による捜索救助活動の状況 (18 (平成30) 年7月)

4 救急患者の輸送や不発弾等の処理など 国民の生命と安全な生活のために

自衛隊は、離島などの救急患者を航空機で緊急輸送しています。状況に応じ機動衛生ユニット（必要に応じて所要の応急処置が可能）も用いて、重症患者を空自C-130H輸送機で搬送する広域医療搬送も行っています（平成29年度は合計で401件の急患輸送を実施）。

救急患者の輸送など



救急患者を空輸中の陸自第15ヘリコプター隊



広域医療搬送中の空自航空機動衛生隊



海難救助活動中の海自第71航空隊

VOICE

海自 第71航空隊 機上救護員
2等海曹 前田 鉄兵

救難現場は遠く離れた洋上、命を救えるのは千変万化の海面に着水できる救難飛行艇だけです。日々、我々にしかできない任務に誇りをもって勤務しています。



不発弾等の処理など

自衛隊は、不発弾や機雷などの除去・処理を行っています。
（平成29年度の処理実績は、不発弾等1,611件、機雷その他の爆発性の危険物1万5,500個）



不発弾処理作業に当たる陸自第101不発弾処理隊の隊員



爆発性危険物の爆破処理準備を行う海自沖縄水中処分隊の隊員

5

各種事態に備えた訓練・演習 実効的な抑止及び対処能力の向上

自衛隊は、各種事態に効果的に対処し、抑止力の実効性を高めるため、日米共同訓練や統合訓練などを目に見える形で実施するとともに、これらの訓練・演習の教訓などを踏まえ、各種計画を不断に検証・見直しています。

日米共同訓練



日本海における海自と米海軍との共同訓練 (17 (平成29) 年11月)



九州周辺空域における空自と米空軍・海兵隊との共同訓練 (17 (平成29) 年9月)

陸・海・空自衛隊による統合訓練



空自入間基地 (埼玉県) における在外邦人等の保護措置に関する統合訓練 (17 (平成29) 年12月)



沖縄県における離島統合防災訓練 (17 (平成29) 年9月)
(洋上の護衛艦「いせ」に負傷者を空輸したドクターヘリ)

地方公共団体との共同訓練



長崎県における国民保護訓練 (17 (平成29) 年11月)

VOICE

長崎県危機管理課 参事 (写真右から2人目)
(国民保護等担当) 青木 広治 氏

陸上自衛隊の指揮官・幕僚としての経験と知識を活かし、防災のみならず弾道ミサイル対応のための国民保護等危機管理全般に関し、知事を直接補佐しています。

